

秋の終わりに…

11月7日（土）は立冬。暦の上では冬になります。

今、まさに秋の終わり。

生きものたちの世界では、命を燃やし尽くそうとするもの、子孫を残そうとするもの、冬越しをする準備をするもの…。様々な姿を見ることができます。



ハチの仲間が銀木犀の蜜と花粉を集めています。

きっと冬に備えて、巣の中に蜜や花粉をたくわえているにちがいありません。



4年生の児童がアブラムシを食べるテントウムシの幼虫を見つけました。

テントウムシの仲間は成虫で冬を越すことが知られています。しっかり食べて、成長して、成虫になって、冬を越せるようにしなければなりません。



おっと、
カマキリ
登場です。

前足の間にオレンジ色の模様があるので、チョウセンカマキリだと思います。
お腹が大きいので、卵を持っているのかもしれませんが。
子孫を残すためには、オスと出会う必要があります。果たして、この大都会の真ん中でオスとめぐり合って、無事に卵を産むことができるのでしょうか…。



ウラナミシジミが
地面の水を吸って
います。

地面の水を吸う多くはオスのチョウで、繁殖に関係していると言われています。
気温がぐっと下がってくるこの時期。チョウにとっては子孫を残す最後のチャンスかもしれません。



閉じた羽の間から
美しい色が。

いや、なかなか綺麗なシジミチョウですね。



クスノキの樹皮の隙
間に何か隠れていま
す。

シミと呼ばれる原始的な昆虫のなかまです。

このように、樹皮や落ち葉、置石などの隙間を利用して生活し、また、冬越しをする昆虫たちがいます。

来る冬に備えつつ、生きものたちの暮らしは続きます。

そろそろ衣替えかなあ～。